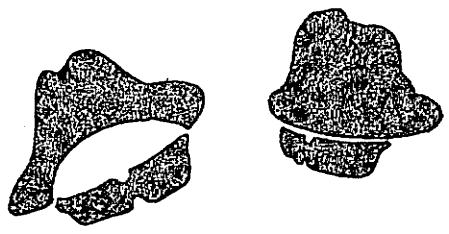


1992年度
7°L冬合宿
冬合宿
山行報告書



SAC

70レ冬合宿 行程

11/21 9:20 ① アルプス 360 — 10:45 ② 小遠見山
— 13:25 ③ 大遠見山 — 13:40 ④ 大遠見山 T.S

11/22 快晴

7:50 T.S — 10:40 五竜岳山荘 T.S 設営後五竜岳往復
11:45 五竜岳山荘 T.S — 13:25 五竜岳 — 14:20 T.S

11/21 14 時 まで

11/22 fix 隊 △ 橋口, 笹林, 長谷川, 松江

7:10 T.S 発 ①

8:15 白岳 ①

9:00 五竜山荘 ①

9:25 発

150 + 75 + 50 の fix を張る

スーパー X7, ライト X2, エキスパート X3 使用

12:05 fix を張り終り ①

その後本隊と合流

スーパーをもう少し欲しかった。ハーフはボロボロの岩なので全くきかない。(とある)

11/23 曇(強風) のち 10:30 ころから 吹雪

7:40 T.S — 8:50 大黒岳 — 12:45 唐松山荘
13:15 唐松山荘 — 14:30 2460m (丸山ケルシの一段上) T.S

唐松山荘でリ-タ-会。唐松岳 79.7 は中止。唐松山荘を T.S とするが、八方尾根を下れると 3 まで下るか話し合う。fix 隊を先発させ、シーバー交信により、下りようであり下りることにする。しかし、この際、意志の疎通が確実に行なわれなかった。

5, 6 年生の松下, 巖岩, 長谷川 (OB) は fix 隊とともに唐松山荘を出発してその後下山。この行動にも問題がある。誰か 117 下山するのかわり隊全体に正確に伝えているなかった。

11/23 Fix隊 上藤江、田尻、高橋、三木

065 五音山荘① - 0740 大黒 牛岳 牛岳
牛岳周辺に fix 約 300m - 1200 唐松山荘 吹雪

岩がモロの為ハーネはきかなり。又、吹きさらしの多ノパー
も仲々 埋めらめなり。ブッシュを上手に理田利用(まじ)。
最後のクサ場と、それが終りからの岩稜は天気が良けれ
ば fix は不必要でしょう。(藤江)

1/24 快晴

6:35 T.S — 7:40 八方池 — 8:55 うきぎ平

途中の斜面で弱層テストをして 1年 = 雪崩の説明をした。

入山前日が 2つ玉他気圧の悪天で、その後も天気悪そう。どうなる
ことかと思つたが、入山してみると意外にも天気良く雪も少なかった。
3日目に風雪のなかの fix 通過となったが、これにより合宿が合宿らしく
なつた感じがする。つりやけで今回、合宿は緊張感に欠けたもの
であった。隊に緊張感を与える、リーダーの役目(リーダー部員も)で
あるが、その役目が果たせなかった。今までも上級生に頼っていたことが
よくわかつた。

今回の合宿の一番の反省は登山の疎通が確実に行なわれなかつた
ことである。特に内題は起す方が非常に危険であり、確認
を怠ってはならない。特に 5、6年生と行く場合には入山前に最後
まで同一パーティとして行動するのが、はよりよさく必要がある。

全体的に一年はよく歩き方があると思う。ヤル気もあるようだ。
しかし最近感じることもあるが、少し誤解している面があるように
思われる。自分の力に自信をもちすぎることは大切であるが、自信は薬物である。

伴野 達也

フレスコ反省感想 藤江

23日 朝つまりぬちがって、雨を、しりしり
訳なかも。Fix隊のリーダーとして、ハケのミカ、悪いという
ことをメンバーにわけてせず、使えぬfixを張ってしまひ、
悪かた。

1年生はゴヨーがあたと思つてゐるようだが、
全体のペースがおそがたし、撤収、設営、Iっぱも
あれだけトトロや、つりたのだから、そう思つたかもし
れなり。あまあらくらいつて、トイセイのつてもうてはゴマシ。
2年は、自分達が1年の見本であり、指導役であること
をもと自覚しなさい。

反省、感想、トール

天気悪、3日を除いて良く、まあまあ山行だ、たのびはないかと
思つた日は、気象庁でさえ予想どきをなかつたものだから、いかにあ
るまい。これにあらましの天候で余裕で行動できたければ、
冬山などいけな。1年生は、よい経験になつたと思ふ。
1年生はesseり中緊張感が全くなかつた様だが、自分のせいだと思
ふが、隊全体に迷惑をかけることを忘れてはならない。こんなことは、
新人合宿前からいわれていることだ。アホではないのだから、
何回も書ける。2年生もまだまだ不足である、冬合宿に
覚悟をもとがむは、ほしい。自分の反省としては、下級生に
もと、糸田と、注意、すべきか、たということと fixをもと、
speedyに張らなくてなかつたか、たということだ、冬合宿は
気分入れるぜ!!!

1年生は初めの冬山でいけるとまど面もあつた
と思つた、意義あるものと思つたと思ふ。Fixの吹雪の
中の通過などはこのところのフレスコにはない天候の
なかのもの、私達にも実りあつたものであつた。あと
Essenや装備の管理を、しかりて下さい。2年生
は Essenとかのペースの様子をよしみて、こ下りい。

(1冊所)

70し冬合宿の反省・感想

個人的な反省としては、やはりリエッセン中 あまりにも
急ぎ急ぎな感じがした。でも山登りを楽しんで
という観点からみれば、ある程度は許容されるの
ではないか。今回だって特に失敗はなかったの
だし。

テント場で他のパーティーがいるのに夜遅くまで
騒ぐのは問題あると思う。自分がそっちの
立場だったら確かに“不愉快な一夜”を過ごす
ことだろう。

今回は夏とはちがって寒かったので、設営・撤収の
時など、努力はしたが、やはり行動が急慢になった。
朝、起床から出発までが あんなにかかったのはなぜ
だろう。検討して今後には生かしたい。

3日目の気象について、上級生の誰もか予想して
いなかったというのは どういうことか。

1年疎外で なにもかもが決めるのだから、せめて
リーダー会のここの説明が 1年にあってもいいのでは
ないか。1年だって いっしょに行動するのだから。

OBの方々には いろいろと丁寧に教わって とてめ
ためになった。

今回の山行が 冬合宿の訓練というのならば、
冬合宿は俺は行けるかどうか。迷うよ

松本 穂高 (1年)

吉澤

70し冬合宿の反省と感想

私は、冬山をみたくて山岳会に入った。やはり景色とかすば
らしい。初日とあ、2日目は、このあいだ富士山に行っていたから
比較的楽に冬山を楽しめたけど、3日目の天気が悪くは
まってきた。やはり冬山とか怖いものだと思った。冬合宿

感想：全体的に見て楽しい山行だった。体力的にも楽しかった。
 足は少し痛む。王をふじ。山行の楽しさを死に
 と訂所には気合いを入れてやった。足使いのよおとし夫
 ミスで死につなごの姐に見えている。以前一回アイゼン
 を使がけていたとておあの子の超気合いを入れて行
 ったつもりだ。その様手面では有意義な山行であった
 本と思っている。これからの山行でも存子で多くの
 ことを吸収していきたいと思った。

ア冬反省

おき

また冬のテント生活になれていなくテント内の
 整理がうまくいかず、時間帯がががが。
 あと事前の準備にきつつか不備がみられた
 さらにスコップをこわした。などいにつも反省す
 るようにがんばりたい。

感想

天候と比較的よくてすがすがしい山行だった
 もっと余裕で歩けようようにしてもっと山を
 歩めようようにしたい。

会計報告

収入)	12,000 × 19人 = 228,000 円	
支出)	エッセン	100,551 円 (1058 円/人・日)
	装備	33,849 円 (1782 円/人)
	交通	
	・リフト	33,710 円
	・列車	40,330 円
	・タクシー	4920 円
		計 78,960 円 (4156 円/人)

支出総計 213,360 円
 (11,229 円/人)

残高) 14,640 円

(安保)

7月冬合宿の反省

2年 長谷川哲也

1巻出へ。fiX隊に出て、fiYを張る経験が出来たことが
成果だと思う。エッセの中に、もっと一年生に指示を出せるように
反省したい。

7月冬合宿の感想と反省 (三木)

天気も三日目までいい悪くなく、遠見尾根も五竜も快適
に行けた。今回はセーターを着ないで済ませられた。

ほかでかい寝袋のおかげで夜は快適だった。

反省：フックス隊でバリバリ行くにはもっと1P7-が
必要であった。冬山だから、一年の健康状態にも留意
し、見落としのないようにしなければならぬ。

装備

ローヤク 0.6本/日

白ガス 2.3L/日 (一人 128ml/日)

X7 27本/日

アルミスコップ 1. 破損

ツェルト 1. 紛失

アルミスコップはムビが入っていたので不安だったが、
やはりこわれてしまった。

ツェルトは夏合宿に続きまたも失くなってしまい、田装

ツェルトは6個のみとなる。相つぐ紛失は、個装を田装

に提供する意欲をなくし、また無用の出費を招く重大問題

である。それ以前にも紛失による山行中の危険が考えられる。

田装は失くさないようにしてほしい。

装備係反省

事前の千際が悪く、自他ともに要らざる労力をかけて

しまった。遅くとも一週間前には準備ができるように

余裕をもたせるべきだろう。

冬台報告

12/20 L藤江 全員行動

七倉山荘0645-0830高瀬ダムTS 曇り

タクシーが入れるのは、葛温泉までということであったが、結局七倉山荘まで入ることが出来た。

12/20 テポ隊 L 橋口, 田尻, 伴野, 高橋, 三木, 松本
尾関, 小林

9:30 TS 発 ⊙

14:05 1800m テポ地 ⊙

15:20 TS 着 ⊙

雪はヒガ下程度で、ソボまでいった。赤布いっぱいあり

12/21 先発隊 L 藤江, 田尻, 長谷川, 高橋, 小林, 流, 松本

TS0630-0845 テポ地 (回収&再デポ) 0930-1010 TS (1900m) 個装を残置し、デポ上げに出発 1030-1405 テポ地 (2420m)

1430-1520 TS 晴れ

深い所は腰までのラッセル。2000mからのガレ場は尾根沿いに行く。夏の巻き道はラッセルがきつそう。ザイルは出さない。大量の降雪後は雪崩と滑落に注意が必要。

12/21 L 橋口, 伴野, 三木, 尾関, 吉沢 後発隊

7:00 TS 発 ⊙

11:15 1950m TS ⊙

11:25 1800m テポ吐地 ⊙ トバクテポ回収

12:00 TS 着 ⊙

テポ場には雪が少し分存した

12/22 先発隊 L 橋口, 田尻, 三木, 長谷川, 流, 吉沢

6:30 TS 発 ⊙

9:00 2350m テポ吐地 ⊙
(回収済)

10:50 I 木小屋 ⊙

11:10 テポに出発 ⊙

13:25 P2792 直下JILにテポ ⊙

14:00 I 木小屋 ⊙

稜線上はかなり風が強かった。

12/22 本隊 L 藤江、伴野、高橋、小林、尾関、松本
 TS07¹⁰-1035 鳥帽子小屋 TS バックデポの回収に出発 1055-
 1115デ 1135-TS 晴れ
 主稜線に出る直下は雪崩に注意。

12/23-25 冬型で吹雪。沈殿。25日午後より回復に向かう。

12/26 fix隊 L 橋口、伴野、長谷川、高橋

7:30 エボシ小屋登り φ
 10:00 野口五郎小屋着 φ
 10:20 登り φ
 12:00 水晶谷手前のfixをはる φ
 1:30 fix はり終り φ
 3:30 野口五郎小屋着 φ

fixは全部で150mぐらいはった。岩は雪にうもれほとんどクラストし
 たので、今回の4ヶ所に限るという左は、エシ問題はないだろう。
 大雪のあとであるが、風が強いので、全くこのことは多く響いた。
 ただし、とても急な斜面をトラバースするので、つらには注意が必要。裝備として
 スーパーグがかなりがえた。岩質がボロボロであるので、ハーネス類は
 ほとんど役に立たないだろう。

12/26 本隊 L 藤江、田尻、三木、1年生全5人
 TS0805-1205 野口五郎小屋 晴れ、風強い

3日分のゴミを燃やし尽くすのに思いの外時間がかかり、出発が遅れる。風がと
 ても強く、しばしば対風姿勢を取り歩みを止める。三ッ岳の手前で松本が両足の感
 覚のなさを訴える。この強風の中をこのまま歩かせるのは危険と感じ、荷物の軽量
 化、アイゼンバンドを緩める、飯を喰わす等する。小屋到着後、藤江、松本は小屋
 内の除雪、凍症の治療の為小屋に残る。夜のリーダー会で、①翌朝になっても感覚
 が戻らない場合②朝になっても回復していても、行動中に再発した場合は、これ以上
 前進すると治療の為の速やかな下山が難しくなる(天候が再び悪化することが予想
 された)ので往路下山することに決める。

12/27 本隊 L 橋口、田尻、伴野、高橋、長谷川、小林、尾関、流、松本
 吉沢

7:35 TS 登り φ
 10:15 エボシ小屋 φ
 二ヶ所 タダレ石なので、タダレ石をつら。
 11:00 登り φ
 300mほど下ると、かなりタダレ石なので、80mほどfixを
 1:30
 1:10 1950m TS φ
 2200

エボシ小屋直下はかなりタダレ石であった。大雪のときには注意が
 必要
 10

12/27 松本は回復せず。前夜の打ち合せ通り、往路下山を決定する。

12/27 Fix回収隊 L藤江、三本

TS0645-0750 東沢乗越0810 水晶小屋へのFixを回収0930 東沢乗越0950-1115 野口五郎小屋 個装回収後本隊を追う1155-1400 烏帽子小屋1415- (本隊の張った雪崩斜面のFixを回収) -1515 TS (2200m) 晴れ後、曇り、朝のうち風強し

12/28 L藤江 全員行動

TS0750-1300 高瀬ダム-1445 七倉山荘 雪 出発直後、松本がキスリングを落とす。降りしきる雪とガスの中、雪崩そうなるルンゼにキスリングは消える。2000mのガレ場は尾根沿いにFix100m。

12/26 デモ回収隊

L 田尾 小林 流 吉天 尾関

補足

12:35 野口五郎小屋発

13:10 デモ土着

13:20 終

14:05 野口五郎小屋

会計.

収入 291,640円

- ・合宿費 252,000円 (2万1千円/人 x 12人)
- ・プロ冬残金 14,640円
- ・^{OB}中村貴士さん 10,000円
- ・オートモービルサービス 15,000円

支出 278,504円

- ・装備 88,077円 → 7310円/人
- ・essen 116,967円 → 573円/人
- ・交通費 63,460円 → 5288円/人
- ・とんかつ 10,000円

残金 13,136円

(→ ここから12000円はバギル代 残りは、松本部長へ)

(松ざわ、高はし)

・調味量の変化

塩 (味つけ用の塩が不足した。日数を考えるべきだった)

砂糖 (おやつを味つけするたよに、スティックタイプを)
もう少し加えるべき。

コンソメ (少し多めの方がいい)

本だし (スティックタイプが便利。USEFULだから)
1日1本分ぐらいは持って行くべし

カレー粉を少し持っていくと nice かもしれない。(冬合宿)

・おやつ

スキムミルク --- 今回新たに登用した。一緒に国箱に
この用の砂糖を入れた方がいゝかも。

アストリアコーヒー (これは、こう使える気がする)

あずき汁 (これも、こう使えるような気がする)

三口を次回試して欲しい。

・乾燥野菜

今回、チクラエビとキクラゲが好評だった。
あまり市販を扱っている種類は少ないが、常に買い物に行くと、
合宿で使えるものをチェックしておきたい。

・炊米

実績は、ICI の防災用を 1人1日1袋、た。

予備日はその 80% とした。

P.S) 充実は食生活を目標するため、意見等ありましたら、

お聞かして下さい。

長谷 哲也

準備系より

消費：ろうそく 4.3本 (0.5本/1時)
メタ 194本 (24本/DAY)
ガス 10.5ℓ (125cc/DAY-MAN)
食器 2個

粉矢： バイル, 竹ハコグ, スーパー1,
大皿ベ1, プス板2, 大皿ベ1,
ガスホリ 1.5ℓ, タン箱予備日用. 以上各店.

- 天気四は予備日は多くとるので, 多めにもっていてもよい.
- 火器は口をしっかりとめておかないと, 危険である.
- ガス, 食糧については, テホした量を確認しておく.

竹ポール, 竹ハコグ 入手場所.

徳作: 中野2-4, (代) 32-3139. 一番細い竹を買い, 半分に切る.
ハンボール箱

大黒: 33-3224, 横田4-10-3. とにかく, 倉庫にゆき, 自分で
(中野) 選ぶと確実.

反省: 買物ははやめにすませておくのが確実.

人に頼むものははやめに頼み, 確認をとっておくべきだった.
とにかく, 後手にまわりがちだった.

編集者より

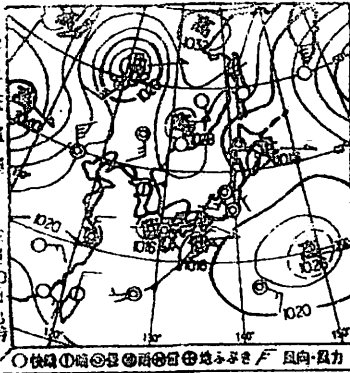
原稿は ①キレイな字で ②ボールペンで

③要りょうよくまとめて ④行をあげずにつめて

⑤両側2cmぐらっずっあけて、

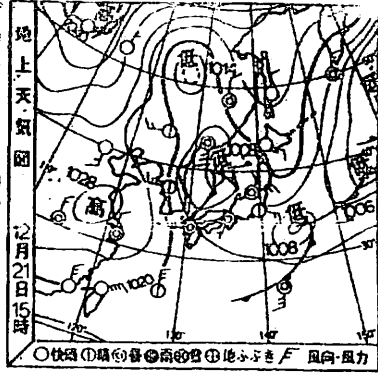
書くハッしッ
〇〇

気象報告



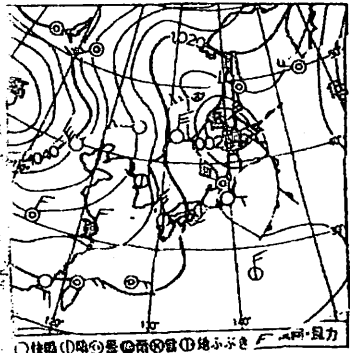
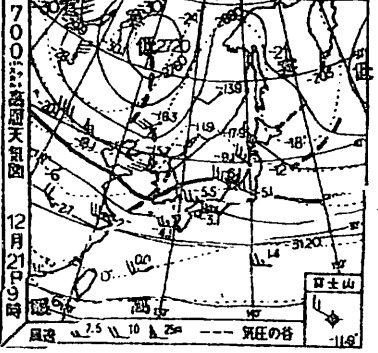
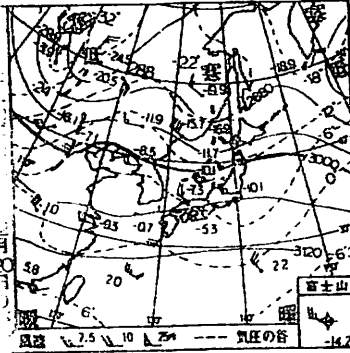
12/21 ① → ②
七倉 - 高瀬 4m.T.S.

初冬が生高気圧が太平洋上に抜けその後寒気を伴った気圧の谷がやってきました。稜線上は雲にかかれて見えないが高瀬4m付近ではこれほど天気は崩れなかった



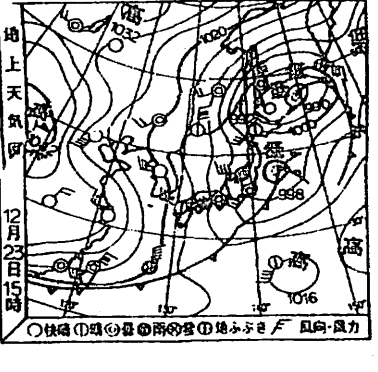
12/21 ①
T.S. - 1950m.T.S.

気圧の谷が去ると思ったが別の気圧の谷がやってきました。しかし天気は晴れ、天気図というのは難しいともあれ良い一日でした。



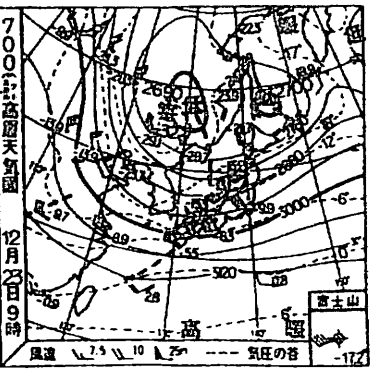
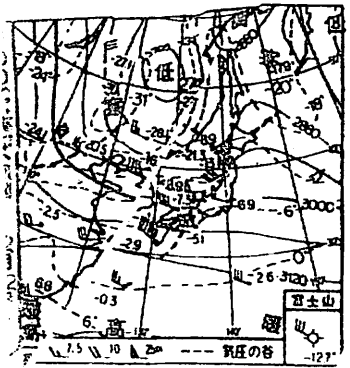
12/22 ①
T.S. - 鳥帽子小屋 T.S.

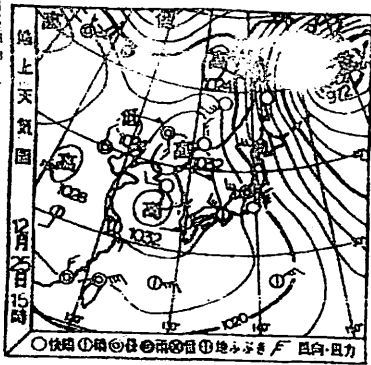
低気圧は北海道付近にあり冬型になり、ある高層を見てみると日本付近には2つも気圧の谷ができていますが天気は良かった。これは疑いなしだったのだから。寒気が北の方にあったせいかもしれない。



12/23 ②
沉澱

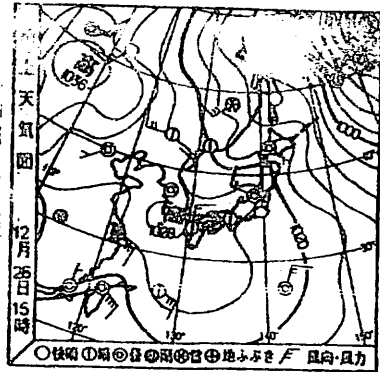
ニッ玉低気圧が通過したため山では大荒れ高層を見て寒気を伴った気圧の谷が見え荒天を示している





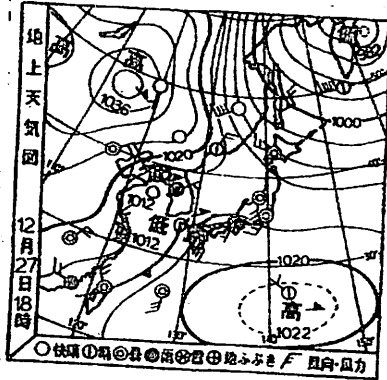
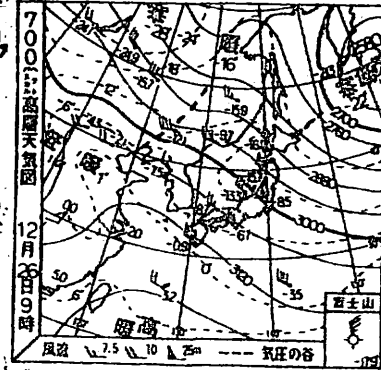
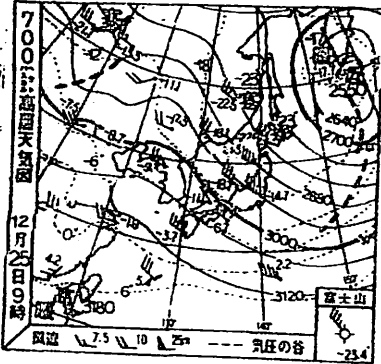
12/25 ①
河原

12/25の新聞が見当たらないので、この図が推測だと地上天気図の高気圧と低気圧の位置から強い冬型だと思われ、実際12/4の図は、
25日の荒天も冬型によるものだが、大陸から斜衝性高気圧がやってくるので次第に天気は回復する。



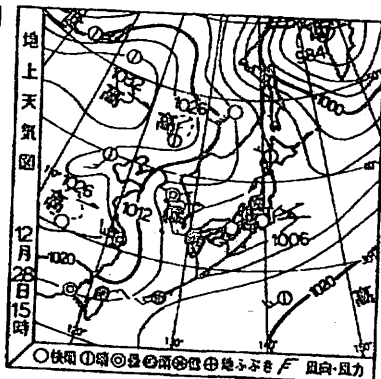
12/26 ①
T.S. - 和歌山

大陸から斜衝性高気圧がやってくるため冬型は崩れ天気は回復。しかし朝鮮半島北部には高気圧があり、華中付近には低気圧のせいで天気悪配。



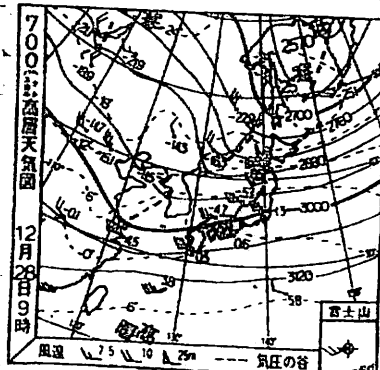
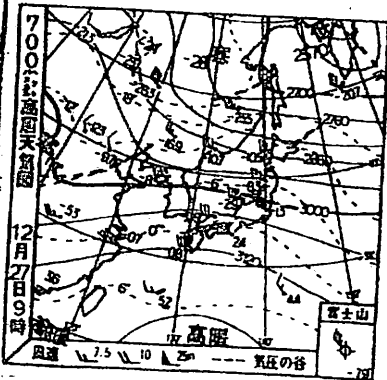
12/27 ①
T.S. - T位尾根200m T.S.

終線上では暗れていたが、西の方を見るととどろいて雷がせまってくるのが見え、斜衝性高気圧は南方海上にうかがわたり、ニッ玉低気圧がせまる。



12/28 ①
T.S. - 七倉=松本

地上天気図上の低気圧これは南岸低気圧というやつで、昨夜が湿った雲をふせ、尾根の下部では雨に落ちた。



天気図は赤旗より抜粋

冬合宿を終えて CL藤江

今回の合宿は松本が凍症 (の一步手前) になってしまい、往路下山という結果に終わった。往路下山という決定は正しかったと思っているし、また同じようなことが返こっても、同じ判断をくだらう。ただ松本を凍症にさせてしまった責任はCLの俺にもあり、それが残念だ。山行前にメンバーの体質や持病などを把握しておくことはCLにとって大事なことだし、山行中も又同様だ。今回はそれを十分に出来ていなかった。健康管理も実力の内だし、自分の体のことを一番よく知っているのは自分である。しかしもし山行中に体調を崩した場合、それをパートナーに知らせる勇気と、逆にパートナーが不調の時にムツとしない度量の広さを持ってほしい。無理して突っ込んで事故ったら馬鹿である。

秋に偵察に行き (とても有効) 計画を建てたわけだが、その後病人・怪我人が続出し、合宿参加者が予定より大きく減ってしまった。その結果1年生にもかなり荷揚げをしてもらったが、よく歩いてくれたと思う。2年生の中には (本当にリーダー部員になれるのか) と思いたくなる者もいた。

なお小屋内でのエッセンは燃料効率が非常に悪いので、テントやツェルトを上手く使って熱を逃がさないようにすると良い。それから無線機の使い方も完全にマスターするべき。使えないとただの重しでしかない。酒は飲むなどは言わないが飲みすぎないように。

来年は成功するよう、頑張ってくれ。

感想と反省

今回の冬合宿は、あという間に終わってしまった。1年生として部員の体の状態を、はやくききながらすることは失敗であった。1年生はがなりか入は、こわいと思う。まあ、かなり行動力があったのでいへ、きりこはしないか。2年生は、自分がいえるべきなのを、もとと考へてもらいたい。

今回は冬合宿が終了、その充実感もなかったし、どうもいって、どうも気が入らない。最後の冬合宿だったが、残念である。

(とあり)

今回の冬合宿は、今までの事態によるエッセンスという形になった。山行の内容自体、難かしい判断を要求するものだし、このような判断による下山もまた、仕方ないし、また、これはこれで実りあるものだと思う。松本の凍傷の予防対策をもっと考へるべきなのは、会全体の反省すべき点である。

P.S. テントを汚し申しわけない。

冬合宿の反省と感想

今日は往路、山と谷、主峰ロープを踏むことを 終りに
なりもの足りない合宿となった。体調管理の大切さを教
育し、そういった面を含めて一年生をもっと見てやるべきであ
った。もう一つ反省すべきことは下山日に緊張感に欠けていたこ
とである。穂高が荷を落としたことにもつながるのでな
いかなと思う。
(伴野 蓮也)

冬合宿の反省

2年 長谷川 哲也

目的地に立った時の雪の状態の判断が、もう少し
適確にできようになりたい。今回は、往路下山になって
しまったが、一年生の凍傷が原因で引をかった。その意義と
必要性について学ぶことができた。結果にこだわらず、
内容を大切にしていきたい。
来年もまた、槍ヶ岳を見直したい。

冬合宿の感想、反省

三木

長い沈殿、人影のない雪道、デポあげ。
冬合宿ではこんなことが体験できた。
沈殿の夜、星空を見あげて甲田は動けると思ったものだ。
残念な事に、この苦労のむこうに槍のピークはなく、
往路下山ということになってしまった。
その直接的原因はメンバーの凍症？ たけんども、そうな
ってしまうかもしれないことを予測できなかったという残念
さがある。寒い小屋の中で、一晩中ぬむぬなかつたという
話を聞いた時にそれくらい考えついでいてもよかった。
個人的にも、体力不足を指摘されてしまい、自分でもはきり
ぬかっていただけに反省している。

この冬での反省は数々あるが、一番のものは體力的なやつである。これは僕の性格によるものが大きい。少くとも、山の上ではたとえ下山途中にせよ、もと引き寄せなければならぬということも、教へられた。それから、もっと一年生を見せやるべきであった。特に冬の際にもそう思い、そう実行したつもりであったが今になってみると何も残っていないことに気づく。更には体力である。今回はその調子は悪くはなかったが、何でこんなところで、といふようなところでバテたりもした。これを謙虚に受けとめて体力づくりに励みたい。

感想としては高山に行けなくて残念だった。しかし、合宿前の重度の虚脱状態、人生投げやりの三木的状態から立ち直れてよかった。でもまだ学校は多い。

冬合宿の反省及び感想

林

今まで冬合宿以外に4つ程合宿を重ねてきた。その結果がかなり濃くこの冬合宿に集ったと思う。自分としては、何かい点まのせけは一つは良く出来たと思う。しかし朝にまたまた一つの行動ののろまかあるのを感じた。レシジョンを取りそこねたりしたことがあったが、いい例でね。その辺のことを今後見直していきたい。又体力面では、スタミナが存いとラッセル時に感じた。もとガンガン行ける様にしたいと思う。感想としては、高山に行けなかったのはヤブ気にかかると、冬合宿としては知識等をかなり学べたものだったと思う。樫岳をひとつでも行ける山である。冬の樫岳は迷げかくれしなので、今から何度か行ってトライできる。前進するより後退する方が難しい。そのことかよくわかった気がする。

冬合宿の感想と反省 吉ざん

冬合宿はとてモ残念な結果でしたが、また登れるし、これ経験です。

深い雪道はとてモくたびれるし、山かんではこらんでしまいました。もと経験をつまなければいけないなと思いました。

冬合宿の反省・感想

生活技術に関しては、ほぼ完成したと思う。

行動面では、ラッセルや雪崩斜面の判断など、

まだまだ未熟ではあるが、だんだん分かってきた。気象に照らしある程度予測ができるようになった。

足の凍傷については、みなに大変迷惑をかけました。別紙にて詳説します。

キスリング紛失について、またもトラブルメーカーになってしまった。様々な悪因が重なりあって起こってしまった事故であるが、結局は自分の不注意ということに尽きる。大変申し分ありませんでした。

今回の合宿は往路下山という形になってしまったが、自分ではいろいろな意味でたいへん実のあるものとなった。

野口五郎の小屋で、ダンボールいっばいのゴミを風に飛ばしているのを見た時、この会の真の姿を垣間見たような気がした。

松本 穂高

冬合宿の感想と反省

今回の合宿は天候にめぐまれず目標をたっせいできずに下山してしまいましたが、ラッセルも経験できたし雪山をすしはかじれたような気がすると同時にこわさも少しわかった。又雪の上で歩くのは疲れが倍増するのと体力面でもっとがんばらなければいけないという思いがふよふよする。

P.S. ~~な~~なたれてはのかかりがなるとなしておるさんにほどいってほしいです。

Pep

冬合宿に於ける足の凍傷について

1年 松本 龍高

山岳会活動のメイン行事である冬合宿において私個人の事情により往路下山という原因を作ってしまったことについて皆様に甚大な迷惑をおかけしました。そのことにつきまして謝意を表すとともに報告をいたします。

1) 状況

12月20から22日までは天気にも恵まれ、何ら問題はなかった。23日から25日までは烏帽子小屋にて停滞。低気圧とそれに続く冬型で、天気は崩れ気温は次第に下がっていった。26日、天気は快晴だったが、飛騨側からの強い風あり。引き返すことと決まった翌27日、天気快晴、風速15 m/sくらいか。28日雪のち雨 暖かい日だった。

2) 経過 (足の状態)

1・2・3日目には何ら変化はなかった。22日、自分はエッセン当番で小屋の土間に寝た。就寝時気温 -9°C 、起床時気温 -12°C 。

23日、エッセン当番。風が強くなっており土間には雪が積もっていった。就寝時気温 -12°C 。この夜ははじめて靴下を穿いたまま寝た。ところが夜中両足の裏が非常に冷たくなっていることに気がつく。靴下を穿いて寝たことがいけなかったのかと思い、その時点で靴下を脱ぐ。しかし朝状態は変わっていなかった。感覚はあった。起床時気温 -16°C 。エッセン作業中冷たさは消えた。

24日 小屋内で寝たため異常なし。この日土間に ICI 天幕設置。

25日 エッセン当番。寝る直前になって左足親指の感覚が麻痺していることに気がつく。申し出るとユベラ軟膏を塗っておくようにと言われるが 忘れた。この晩は天幕の中だったため寒くはなかった。

26日 朝の患いだしさの中で 指の状態を確認するのを忘れる。 外に出、出発準備をしていると、どんびい足の裏が冷たくなっていくのが分かった。ゴミを燃やしている間、小屋の周りを走ったりしたが、回復しなかった。

1ピッチ目、額に汗かにじむほどの歩行だったが、次第に両足の裏全体の感覚が麻痺していくのが分かった。休憩時にもたえず靴の中で指を動かしたりしていたが、己に感覚はなかった。

2ピッチ目 歩き始めてすぐ 胸をつくような急登を登っている時、一瞬（もしかしたらやばいかも）ということが頭まよぎり、その場で藤江さんに事情を話す。その時は己に足が地面についているのかすらも分からなくなっていた。しかし写真を撮ったりと無理に明るく振る舞った。そこからは荷物を持ってもらうたりと優遇されながら目的地へ、歩行には特に支障はなかった。靴下は二重にしていた。

小屋に入っただけで治療を始めたが、すぐに指を死して、そして夕方までには両親指を死して感覚は戻った。親指は色は変わっていなかったが、少し硬くなっていた。ユベラCを飲み、ユベラ軟膏を塗り、カイロを入れてあったかくして寝た。

翌27日 朝になっても回復していなかった。往路下山の決定。この日は1度 指全体の感覚がなくなったが、親指を死してすぐ回復した。その状態はその晩も翌28日も続いた。

3) 医者 の 診 断

下山した翌日、中央の藤森病院にて
「凍傷にはなっていないようですからそのうち自然に治るでしょう。」
ユベラ軟膏と思われる塗り薬をもらう

4) その後の状態

下山後11日たった1月8日の時点で、右足の親指は裏の2/3ほど、左は1/3ほど、まだ感覚は戻っていない。しかし少し硬くなっている程度で色も変わっていないし、回復の方向に向かっている。

5) 原因

直接的な原因を断言することはできません。

以下原因になったと思われることを列挙します。

- ① 26日出発時、靴の中敷きが濡れていた。
- ② 靴下の二重ばき → 血行不良
- ③ アイゼンバンドを強く締めすぎた → 血行不良
- ④ 栄養不足
- ⑤ 寒さに対する不慣れ

その他 上級生への遠慮かうの早期申告漏れや 凍傷への理解度の浅さ などがあるかと思えます。

これらの中でも ⑤の原因は大きいものと思われます。とすると今回は多分に不可抗力的な要素もあったのではないのでしょうか。

6) 予防策

上に挙げた項目に沿って考えてみたい。

①について

プラスチック靴のインナーシューズとその中敷きを分けてシュラフに入れて寝たが、靴が濡れた。エッセン中に

靴が濡れた努力をしたが駄目だった。つねり冬山では一度濡れた物は乾かないものとして、濡らさない努力をしなければいけないと思う。具体的にプラスチック靴については濡れてしまった靴下は使わない、スパッツは完全なものを扱う などがだろうか。そういえば今回は21日にスパッツを破ってしまった。そのために靴が濡れてしまったのだから。

②について

私は寒さに弱いということを知覚していたのでわざと二重にしていったが、それが裏目に出たのだから。しかし一筋にした2重でもやはりな、と思ったので、これは冬山の経験を重ねた上での独自の判断によるしかないのだから。

③について

これはちやうとした注意で改善できる。きつく締めることはいいことだと無条件に考えていたのに反省を迫られる。

④について

条件は皆同じなので原因としてはあまり重要視できない。栄養剤を飲むなどが効果的だろう。

⑤について

私は今日の合宿の前に寒さに慣れよう などということには毛頭考えなかった。その大切さを知った今となってはやはりアンダル越冬を完遂するしかないと思った。

その他に挙げたものについてはまったく不可抗力的な要素はないので論ずる必要はありませんが、上級生への遠慮ということでは、藤江さんが反省会で言った、「小さなことでもなんでも上級生に気軽に言えるような奮闘気作りが大切」であると同時に、そのようなことを言う勇気を育てる指導、つまり言わなければいけないんだということをお分かりさせることが必要なのではないのでしょうか。

7) まとめ 感想

今回の合宿は私にとって初めての本格的冬山ということに非常に期待していましたが、このような形に終わってしまって残念です。もちろん今回の敗退の原因が多分に自分にあつたことは重々承知しておりますが、皆様に申し合けないことをしたと痛感すると同時に、また自分にとってはとてもよい経験になったことも専断です。自分がパーティーのリーダー格になった時、下級生のどんな小言でも見逃してはならず、きちんと聞いてあげなくてはいけないんだということを知りました。もし今回のようなことがなかったら、自分がリーダー格になった時、ずっと前かうあためてきた計画を、しょぼい1年のために投げ出すことができたでしょうか。とても不安です。

そして好き大存る主人公は夫がいとう存てしまふ。うん、と存て
読め終る事とかしげしげある。悲しいと思ふが悲しい。しかしこれ
はよくあること存のがきしれ存り。また新田次郎にはよく真切な
夫中のた。今井通子も、中々50才位のいいおぼやん夫が。その50
年代の人か集まってシルバークトル隊存んをを作り チューユー存と
登っているのたからまたまた元氣存年代存のがきしれ存り。一時代
をきすい夫人達だからやはりすてい存と感しる今日頃々である。と大か
く小島会の中でまた讀んで存い人や讀め夫く存いと直い張る人でも身台
いを入れて一発讀んでくたさる。僕存と以外と影響されやアいので
こん存小説を讀んだ後は数日間 頭から離れません。とりとめの
存い、よく理解でき存い文章でしたかこれにて終りたし夫りと思ひます。

Y. KOBAYASHI

業界用語入門編

- 「ズイマー」 → まずの
「メーラン」 → ラーカ
「バーノス」 → スノバー
「ダーリー会」 → リーダー会
「リーダー」 → タリシ
「ミーメ」 → メシ
「メーア」 → 雨
「ムイサー」 → 寒の

etc

七瀬・松本 平成5年1月26日